

ネットワークコミュニケーション

第10回：インプレッションマネジメント

2006年秋学期

担当：加藤文俊

121806

きょうの内容

2|34

- 弱い紐帯の強さ
 - 情報収集機能
 - 社会的なネットワークとキャリア
- 印象操作（インプレッションマネジメント）
 - 戦略としてのコミュニケーション
 - 目的と自己呈示
 - ネコミのこれからについて

- 人脈、コネ、縁故 → ネガティブな語感
- 資源としての人間関係
- “ネットワーキング”

- vulnerability: 傷つきやすい、攻撃されやすい
- 弱い者ほど、他者から力を引き出す可能性が高い（弱者の強さ）。
- 強い者、の行為の結果がみずからをvulnerableな状況に置くことになる。
 - 困っているひとを助けようとする、
 - 情報を出せば出すほど、文句、避難、新たな仕事を生む。
- 参考：安田雪（1997）「ネットワーク分析」

- グラノベッター（1973）「弱い紐帯の強さ」 *Strength of weak ties, American Journal of Sociology*, 81, pp. 1287-1303.
- 求職活動の調査を通じて、人々が新しい就職先を見つけるさいの有効な紹介者となるのは、親友や家族、親戚、地域コミュニティの仲間のような「強いつながり（strong ties）」の相手ではなくい。
- ほんのちょっとした知り合いや偶然に近づきになった人のような、「弱いつながり（weak ties）」の相手である場合が圧倒的に多い。
- 参考：安田雪（1997）「ネットワーク分析」

- 情報源：パーソナル/フォーマル
 - 大学4年生を対象（安田, 1996）
- 男女のちがい
 - 女子：家族、親戚、大学の教員、先輩、就職課
 - 役に立つと考え、依存的）
 - ただし、事後的にはさほど役だったわけではない...と評価
 - 男子：もともと周囲には期待しない

- 情報収集機能
- 相手との接触頻度・接触時間・関係の質
 - 強い紐帯：友人・知人・同僚
 - 弱い紐帯：あまり親しくない、会う機会の少ない知人

- 同類原理
- 類は友をよぶ：強い紐帯で結ばれていると、いろいろな面で似てくる。
- 同一のコミュニティ（社会圏）において強く結びつく

- 参考：安田雪（1997）「ネットワーク分析」

- 橋渡し (bridging) 機能
- 異質な人びとや、異なった種類のコミュニティ (社会圏) どうしを結びつける

■ 参考：安田雪 (1997) 「ネットワーク分析」

- グラノベッター (1973)
- 転職後の仕事に満足している人は、「弱い紐帯」からの情報にもとづいて転職した人が多い。
- 企業規模・年収の変化
- パラドクス？
- 「弱い紐帯」のほうが情報収集に幅ができる？
- コミュニティの維持

- 『行為と演技』 The Presentation of self in everyday life (1974) ゴフマン
- じぶんは他者にどのように見られているのか
- 面目行為 (face-work)
 - 健全なプロセスとしての印象操作 (文化によるちがい)
 - 親密な関係生成に (ある程度は) 必要
- 詳細な観察 (観察可能なによって明らかにすることができる (← 動機やパーソナリティなどの内面))

- 自己呈示はコミュニケーションの本質的な要素：ひとの行動は自己呈示的動機に影響される。
 - 過去を美化する - デートのときに思い出話をする。
 - 日常のふるまいを示す - 誰かが遊びに来るときには部屋を片づける。

- **イメージの選択**
- **コミュニケーション戦略（特定のイメージ形成が、目的の達成に役立つという想定）**

- **「導管（Conduit）」メタファー（Reddy, 1979）**
 - 「伝達」としてのコミュニケーション
 - 「伝達」としての教育

- Ideas (or meanings) are objects.
 - 考え（あるいは意味）はモノである。
- Linguistic expressions are containers.
 - 言語表現は容器である。
- Communication is sending.
 - コミュニケーションは送ることである

1. 話し手は考え（モノ）を言葉（容器）に盛る。
2. そして、（導管を通して）それを聞き手に送る。
3. 聞き手は考え（モノ）を言葉（容器）から取り出す。

- It is hard to *get* that idea *across* him.
 - その考えを彼に通じさせる（わからせる）のは難しい。
- I *gave* you that idea.
 - その考えをあなたにあげた（教えた）。
- Your reasons *came through* to us.
 - 君の理屈はわれわれに伝わってきた（腑に落ちた）。

- 「導管」として語ることによって、際立つのはどのような側面か
- 「導管」として語ることによって、覆い隠される側面は何か
- 代替的なメタファーは何か

議論は戦争である。
コミュニケーションは戦争である。

19|34

- 君の主張は守りようがない。
- 彼は私の議論の弱点をことごとく攻撃した。
- 彼の批判は正しく的を射ていた。
- 私は彼の議論を粉砕した。
- 私は彼女との議論に一度も勝ったことがない。
- そんな戦法ではやられてしまう。
- 彼は私の議論をすべて撃破（論破）した

keio university fklab

メタファーによる構造化

20|34

- たとえば、「議論は戦争である」というメタファーは、われわれが議論する際にとる行動や、その行動の理解のしかたに（少なくとも部分的に）構造を与えている。
 - レイコフ&ジョンソン『レトリックと人生』

keio university fklab

- 「導管」メタファーに基づくコミュニケーション理論は、たとえば政府による監視やコンピューター化されたファイルなどに見境なく大規模に応用されるならば、単に不適切なメタファーであるというだけにとどまらず人に害を及ぼすものになってしまう。そこには、真の理解にとって是非とも必要なものがほとんど含まれていないからである。（つづく）

- そして、ファイルの中のことはそれ自体の中に意味が――人間から切り離された、客観的な、わかりやすい意味が、あると考えられることになる。社会が大規模に「導管」メタファーによって動かされるようなことになれば、誤解や迫害、あるいはもつと忌まわしいことが生じかねないであろう。
（邦訳：pp. 321-322）

**議論はダンスである。
コミュニケーションはダンスである。**

23|34

- リズム感／スピード感
- パートナー
- ノリとキレ
- 見る＝見られる
- 演じる（オーディエンスの存在？）

keio university **fklab**

**議論はダンスである。
コミュニケーションはダンスである。**

24|34

- 議論に勝ち負けはない。
- 攻撃から自分を守るという感覚はない。
- 優勢劣勢という感覚はない。
- 協力する・バランスを保とうとする。

keio university **fklab**

- コミュニケーションはネットワークである。
 - 3大ネットワーク，基地局，地方局
- コミュニケーションはウェブである。
 - 分散・拡張，増殖・新陳代謝，同時多発的

- コミュニケーションについてのコミュニケーションがおこなわれたか。
 - メタ・コミュニケーション
 - ローカルなルールの設定
 - 評価（賞罰）の仕組み
- どのようなメタファーで、SNSをとらえていたか。
 - 場所としてのSNS
 - 派生するメタファー；一貫性をもった構造化

- Price, D. (1963) Little science, big science
- 研究領域の細分化
- 職場への帰属意識が希薄に
- 定例化・形骸化？
- 人間関係の維持・修復
- ジョブ・ハンティング

- ヒューマンネットワーク
 - 研究内容？人格？
- 「巡業路」の生成
- いまでは電子的にも構成される
- コロニー化

- GA君は、それぞれのアドバイスに応じて、履歴書を書き直しました。
- 履歴書は各グループ宛てに共有ファイルとして、12月18日（月）深夜までにアップされます。
- バージョンアップされたものをふまえて、再度、アドバイスをしてください。

- コミュニケーション戦略として整理してみる。
- 相手（誰に向けた履歴書か）を、より具体的に考える。
- アドバイスをあたえる側の「印象操作」についても考えてみる。
- 提出期限：2007年1月13日（土）23:00ごろ
 - 最終バージョンであることを明記すること

- グループのメンバーもしくは「友だち」に年賀状を書く。
 - 紙媒体で書いたものは、加藤+SA/TA経由で本人に渡るように工夫する。
 - 宛名（ニックネーム）を明記すること。
 - 受付期間：12月19日～2007年1月12日（1407の前にポストを設置予定）

- レイコフ&ジョンソン（1986）『レトリックと人生』大修館書店
- 瀬戸賢一（1995）『メタファー思考』講談社現代新書
- Reddy, M (1979) The conduit metaphor. In A. Ortony "Metaphor and thought" (pp. 284-324). Cambridge University Press.

■ 漂流日記

- 顔が見えないひととのコミュニケーション
- 非同期
- 信頼と共有

